

## 深みのある学力

校長 大谷 尚

本校の教育活動には多様な要素、背景が存在しています。それらを簡単に言えば、「総合人間科」、「中高一貫教育」、「SSH」「高大連携」、そして「ユネスコスクール」などです。

これらはその都度、文科省（文部省）の教育課程開発のための研究指定など、さまざまな指定を受けて取り組まれてきたものですが、本校では、その都度のテーマによって研究の取り組みが移っていくのではなく、新しい取り組みはそれまでの取り組みの基盤の上に成立し、そのことでそれまでの取り組みもいっそう厚く、深くなっています。つまり本校では、これらの要素や背景のすべてが、分かちがたい形で対話的に関連しており、生徒たちはその中で、多様で豊かな学習体験をそれぞれに発展させています。

以前、本校で教育実習を修了した名古屋大学の4年生が、反省会で次のように語りました。「自分の高校時代の授業は、記憶と想起を中心とし、主に大学受験のためのものだった。しかしこの学校の授業は、教科の本質を協働で追究していくような授業だった。そのため、自分の高校時代の学習体験は、教育実習ではほとんど役に立たなかった。」このことばは、よりレベルの高い大学に合格するための受験学力を獲得させることを第一の目的とする今日の一般的な進学校やそれに代表される中等教育の姿を、よく表しているように思います。それに対して本校が生徒に獲得させたいのは、単に大学に合格するための学力ではなく、大学で学んでいくための学力、そしてそれを通して、自分の生きていく社会を見つめながら主体的な進路選択を行うための学力であると言えます。本校のSSHの活動が、単に自然科学を対象とするだけでなく、それをより深く考えるための社会科学や人文科学までもも包含したものになっているのは、そのためでもあります。

さて、本書は、本校のSSHの第2期第1年次におけるこのような多様な取り組みを中心にまとめたものです。ここに記した取り組みには、上記のような高大連携に基づくものが数多く含まれています。そのような取り組みに関わって下さった、名古屋大学をはじめとする諸

大学のたくさんの先生方をはじめ、日頃から本校の取り組みにご指導、ご支援を下さっているすべての皆さまに感謝を込めて、本書をお手元にお届け致します。これからもどうぞ、これまでと変わらぬ忌憚のないご意見、ご批判、また強力なご指導を頂戴できますことを心より願っております。